大阪ガス株式会社

お問い合わせ先

別添　大阪ガスのお問い合わせ先をご参照願います。

おねがい　ガスくさいときは、ガス栓を閉め窓を全開にして、（火気に注意して）大阪ガスに連絡してください。

5101460000　　HA-30

①

取扱説明書

ガス給湯器（厨房ダクト直結形）

品　　名：33-359型

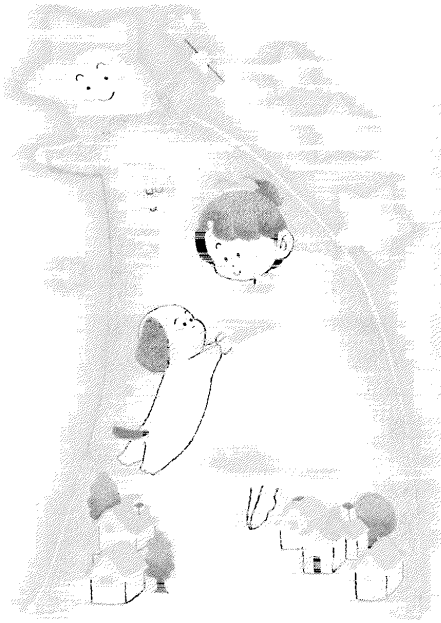
型　式　名：UR-1050FES-L-HP

この取扱説明書には、ガス給湯器（厨房ダクト直結形）を安全に使用していただくために必要な注意事項、使用方法が記載されています。
本機器を使用する前によく読み、十分に理解した上でご使用ください。

この取扱説明書は、いつでも使用できるように大切に保管し、使用方法がわからないときお読みください。

保証書は別添になっています。販売店から必ず受け取って、お買い上げ日、販売店名、保証内容などをよく確認し、大切に保管してください。

来客者などが機器を使用するときは、その前に必ず取扱説明書の内容を説明してください。



安全のための注意　必ずお守りください …… 2

各部の名前とはたらき
- 機器本体 …… 9
- 本体操作部 …… 10

使いかた
- 初めて使うとき …… 11
- お湯を使うとき …… 12
- お湯はりするとき …… 14
- お知らせ音量の変えかた …… 16

凍結予防
- 通常の寒さのとき …… 18
- 冷え込みが厳しいとき …… 19
- 冬期に長期間使用しないとき …… 20

日常の点検とお手入れ　点検のポイント・お手入れのしかた …… 22

故障かな？と思ったら
- こんな場合は故障ではありません …… 25
- 修理を依頼される前に …… 26
- エラー表示 …… 27

アフターサービス　アフターサービスについて …… 28

仕　様　仕様 …… 29

大阪ガス

5 1 0 1 4 6 0 0

本書を紛失されたときは、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスでお買い求めください。

安全のための注意

必ずお守りください（安全にお使いいただくために）

この取扱説明書では、誤った取り扱いによる危害・損害の程度を次のように区分しています。お客さまや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容は下図の通りです。よく理解して正しくお使いください。

⚠危険　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

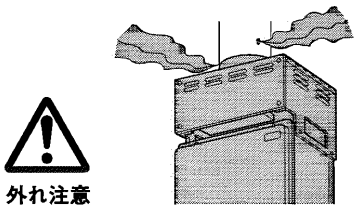
お願い　この表示は本機器を安全・快適に使うため、是非理解していただきたい事柄を示しています。

絵表示の意味	
△ 記号は注意	△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。 △の中や近くに具体的な注意内容が描かれています。 例 …感電注意
⃠ 記号は禁止	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 ⃠の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。 例 …火気禁止
● 記号は行為を強制・指示	●記号は行為を強制・指示する内容があることを告げるものです。 ●の中や近くに具体的な強制・指示内容が描かれています。 例 …必ず行う

⚠危険

ダクトとの接続部の外れに注意

●ダクトとの接続部の外れや損傷、穴あき、詰まりに気づいたときは、すぐに使用をやめ、販売店へご連絡ください。このまま使用すると、排気が室内に漏れて、一酸化炭素中毒の原因となります。

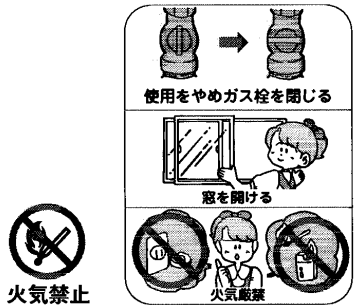


⚠危険

ガス漏れ時の処置

●すぐに使用をやめガス栓を閉じて、窓や戸を開けてから、もよりの大阪ガスへご連絡ください。

●係員が処置するまでは、電気製品（換気扇など）のスイッチ操作や電源プラグの抜き差し、マッチ・ライターなどの使用は絶対にやめてください。周辺の電話も使用しないでください。
火や火花で引火し、爆発事故を起こすことがあります。

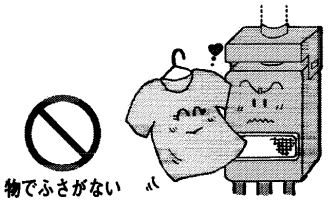


⚠警告

使用中は窓（給気口）を開ける

●給気フィルター部やフード部の給気口は、物などでふさがないでください。

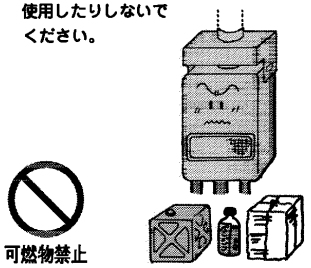
●使用中は常に部屋の窓（給気口・排気口・小窓など）を開けてください。
不十分だと不完全燃焼の原因となります。



火災・爆発予防のために

●機器やダクトとの接続部の周囲には燃えやすいもの、加熱されて困るもの（木材、紙、洗濯物、植物、ペットなど）を置かないでください。

●機器やダクトとの接続部の周囲には、引火しやすいもの（ガソリン、ベンジン、灯油など）やスプレー缶を、置いたり使用したりしないでください。



安全のための注意

必ずお守りください

⚠警告

自分で工事しない

●この機器は「特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律」で定める「特定ガス消費機器」です。「ガス消費機器設置工事監督者」のもとでなければ取り付けできません。
この機器には、工事完了後、工事責任者が法定ステッカーを貼付することになっています。法定ステッカーがないときは、販売店へご連絡ください。

●機器の設置・移動および付帯工事は販売店に依頼してください。
正しく設置しないと思わぬ事故の原因となります。

自分で工事禁止

機器の設置について

●この機器は必ず屋内に設置し、排気ダクトに直結してください。
屋外に設置すると雨水が浸入したり、炎が風にあおられて機器の故障や火災の原因となります。
また排気ダクトに直結せず、排気筒を接続して屋外に排気するような設置にすると、排気が室内に逆流し大変危険です。

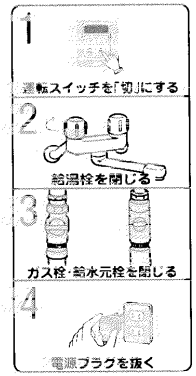
●機器一台につき410m³/hの必要排気量が確保できる排気ダクトに接続してください。

異常時の処置

●異常燃焼（フード部から煙が出る）、臭気、異常音、水漏れなどに気づいたときは、すぐに使用をやめ、下記の処置をして、販売店へご連絡ください。

●地震、火災など緊急のときも同様に処置してください。

※これはガスが漏れたときの処置方法ではありません。ガス漏れに気づいたときは・・・
☞P8「ガス漏れ時の処置」

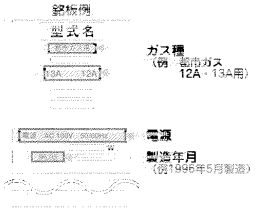


⚠警告

ガスの種類と電源を確認

●機器前面下部の銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）および電源（電圧・周波数）以外では使用しないでください。
異なるガスや電源で使用すると、爆発点火や不完全燃焼、火災や機器破損の原因となります。

不明な点は販売店またはもよりの大阪ガスへご連絡ください。



銘板を確認

排気ファン停止中は使用しない

●排気ダクトの排気ファンが停止しているときは使用しないでください。
排気が室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因となります。

分解禁止

●修理技術者以外は分解したり、修理・改造はしないでください。
感電やけが、故障の原因となります。

分解禁止

お湯を使うときはやけどに注意

●お湯を使うときは給湯温度表示を確認し、必ず手でお湯の温度を確認し、湯温が安定してから使用してください。

●お湯を一度止めて再度使用するときは、一瞬熱いお湯が出ることがありますので、出始めのお湯は体にかけないでください。

●給湯栓で湯量をしぼりすぎると、熱いお湯が出たり、水になったりします。
特に水温が高いときは、給湯温度を低くしても湯量が少ないと熱いお湯が出ることがあります。こんなときは湯量を増やすか、水と混ぜてお使いください。

●使用中、水圧の変化などでお湯の温度が変わることがあります。特に小さなお子さまには一人でお湯を使わせないでください。

高温注意

安全のための注意

必ずお守りください

⚠注意

入浴するときはやけどに注意

●浴槽にお湯はりして入浴するときは、必ず手でお湯の温度を確認してください。

●浴槽のふたは蒸気でやわらかくなることがあります。ふたの上に乗ったり、手をついたりしないでください。

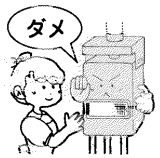
高温注意

おぼれたり、やけどをすることがあります。浴室では小さなお子さまを遊ばせないでください。

機器やダクトとの接続部でのやけどに注意

●使用中、使用直後は機器やダクトとの接続部とその周辺は高温になりますので、さわらないでください。

接触禁止



用途について

●台所、洗面所、浴室などの給湯やシャワー以外の用途には使用しないでください。
思わぬ事故の原因となります。

無理な力を加えない

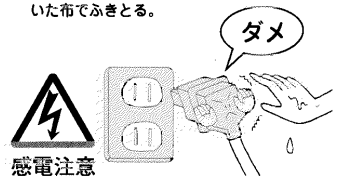
●機器本体や付帯設備の上に乗ったり、重量物をのせたりしないでください。
故障やけがの原因となります。

感電事故防止のために

●この機器はアースが必要ですので、アース線がアース端子に接続されているか確認してください。
☞P9「機器本体」

●電源プラグはぬれた手でさわらないでください。

●電源プラグ・電源コードは下記の点に注意して使用してください。
・電源コードを加工したり、破損させたりしない。
・電源プラグを持って抜き差しする。
・コードを引っぱって電源プラグを抜かない。
・電源プラグは根元まで確実に差し込む。
・電源プラグにほこりがついているときは乾いた布でふきとる。



感電注意

他の機器との接続について

●この機器をソーラー（太陽熱温水）システムに接続しないでください。
高温のお湯が出てやけどをすることがありますのでご注意ください。

高温のお湯を水と混ぜて使うとき

●やけど防止のため、お湯を出すときは先に給水栓を開け、次に給湯栓を開けてください。お湯を止めるときは先に給湯栓を閉じ、次に給水栓を閉じてください。

お願い

停電時の処置

●停電時は使用できません。
再通電したときは、給湯温度表示などを確認してください。
☞P13「給湯温度のめやす」

お手入れの際の注意

●お手入れは機器が冷めてから行ってください。

●けがには十分ご注意ください。

●機器や本体操作部を洗剤、ベンジン、シンナーでふいたり、タワシなど固いものでこすらないでください。

●浴槽、洗面台はこまめに掃除して清潔にお使いください。

日本国内向けです

●海外での設置および使用はしないでください。
思わぬ事故の原因となります。この場合は当社では責任を負いかねます。

国内でのみ使用

冬期または長期間使用しないとき

●冬期は凍結予防をしてください。
☞P18「凍結予防」

●長期間使用しないときは水抜きをしてください。
☞P20「冬期に長期間使用しないとき」

機器本体・本体操作部について

●水をかけないでください。
故障の原因となります。

●子どもがいたずらしないよう、注意してください。

●テレビやラジオは機器本体から1m以上はなしてください。
音声や画像が乱れることがあります。

●炊飯器、電気ポットなどの蒸気、温風を当てないようにしてください。
故障の原因となります。

温泉水や自家用井戸水で使うと

●水質によっては、機器内の配管内部に異物が付着するなど耐久性を損なう場合があります。

飲用に使うときは

●しばらく使わなかった後の使い始めのお湯は、飲んだり調理に用いないで、雑用水としてお使いください。

安全のための注意

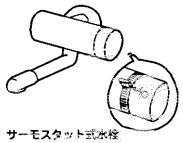
必ずお守りください

お願い

水栓について

●水栓にはいろいろな種類があります。詳しくは水栓の取扱説明書をご覧ください。
水圧の低い地域では泡沫水栓を使用しないでください。お湯の温度が不安定になります。

●サーモスタット式水栓をご使用の場合は本体操作部の給湯温度はご希望の温度（ハンドルの温度）より高めにしてください。



サーモスタット式水栓

ガス事故防止

●使用時の点火、使用後の消火を確認してください。

スプレーの使用注意

●お湯を使用中に機器の近くでシリコン系スプレーを使わないでください。
故障の原因となります。

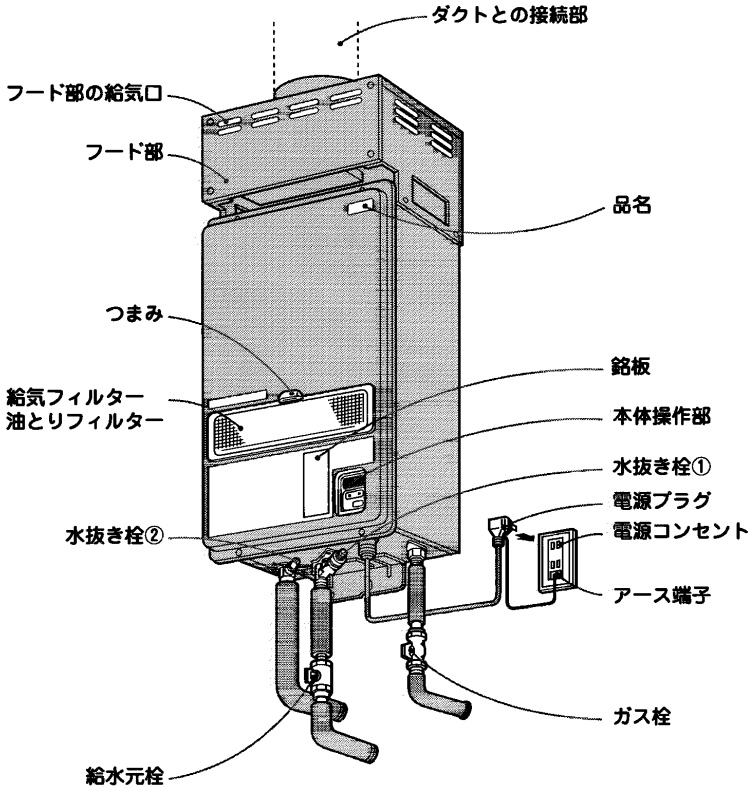
別売専用部品以外は使わない

●この機器の別売専用部品以外は使用しないでください。
故障の原因となります。

各部の名前とはたらき

機器本体

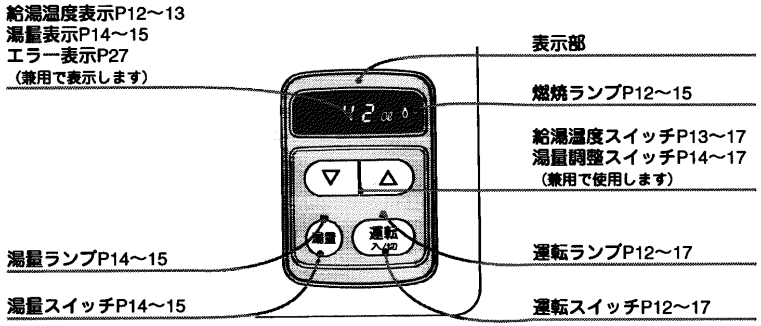
機器各部の名前と機器本体の取り付け位置を確認してください。



本体操作部

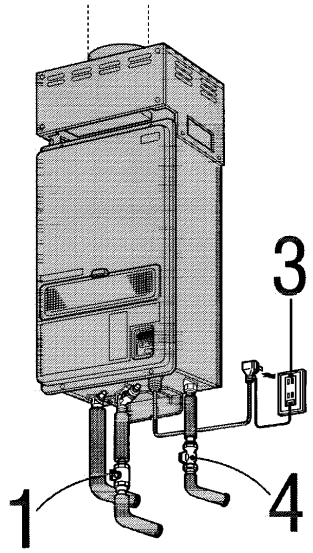
本体操作部の各部の名前を確認してください。
表示部は実際の運転状態を示すものではありません。

本体操作部



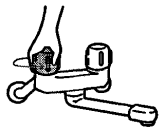
使いかた
初めて使うとき

初めて使うときは、次の準備が必要です。



1 全ての給湯栓が閉じていることを確認し、給水元栓を全開にする。
左いっぱいに回します。

2 給湯栓を開け、水の出ることを確認して閉じる。



3 電源プラグをコンセントに差し込み、アース線をアース端子に接続する。

4 ガス栓を全開にする。
左いっぱいに回します。

使いかた

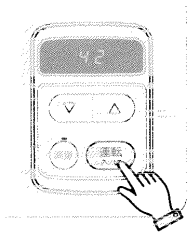
お湯を使うとき

お買い上げの際は給湯温度は42℃に設定してあります。

1 排気ダクトの排気ファンが運転（回転）していることを確認する。

2 運転/入切 を押し、給湯温度を確認する。

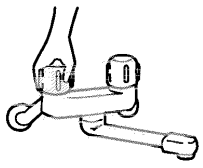
給湯温度表示



運転ランプと給湯温度表示が点灯します。

給湯温度を変えたいときは・・
☞P13「給湯温度の変えかた」

3 給湯栓を開ける。使用後、給湯栓を閉じる。



給湯栓を開けるとランプが点灯し、しばらくしてお湯が出ます。

給湯栓を閉じるとランプが消えてお湯が止まります。

⚠警告

排気ダクトの排気ファンが停止しているときは使用しないでください。
排気が室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因となります。

⚠警告

やけどに注意

高温注意

●お湯を使用している本人以外（小さなお子さまなど）は、給湯温度を変えないでください。

●お湯を使うときは給湯温度表示を確認し、必ず手でお湯の温度を確認し、湯温が安定してから使用してください。

●お湯を一度止めて再度使用するときは、一瞬熱いお湯が出ることがありますので出始めのお湯は体にかけないでください。

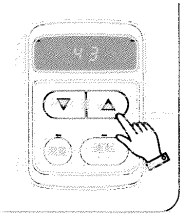
●給湯温度表示が「HI」のときは高温のお湯（約65℃）が出ますので、やけどにご注意ください。

使いかた

お湯を使うとき（給湯温度の変えかた）

お買い上げの際は給湯温度を42℃に設定してあります。
お好みの給湯温度を設定してください。

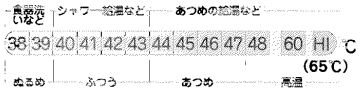
1 給湯温度を設定する。



△を押すごとに高く、
▽を押すごとに低くなります。

給湯温度のめやす

給湯温度を変更する際は下図を参考にしてください。



△ ▽を押し続けると連続で変わります。
60℃以上に設定するときは、もう一度押してください。ピピッとお知らせ音が鳴ります。

●表示している温度と実際の温度は、配管条件などにより必ずしも一致しません。目安としてください。

●一度設定した給湯温度は変更するまで記憶していますが、HIの設定で 運転/入切 を「切」にしたときは60℃に自動的に戻ります。また優先をもどしたときも同様になります（やけど防止のため）。

●給湯温度が60℃またはHIの設定で電源プラグを抜いたり、停電したときは、再通電後の給湯温度はやけど防止のため42℃に自動的に変更されます。

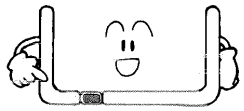
●サーモスタット水栓をご使用の場合は…
☞P8「水栓について」

使いかた

お湯はりするとき

お湯はりのとき設定した湯量になると、本体操作部が電子音でお知らせします。
お湯は自動では止まりませんので必ず給湯栓を閉じてください。

シンクなどの排水栓を閉じる。



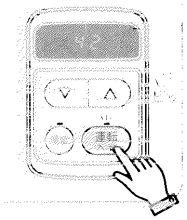
1 排気ダクトの排気ファンが運転（回転）していることを確認する。

⚠警告

排気ダクトの排気ファンが停止しているときは使用しないでください。
排気が室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因となります。

2 運転 を押し、給湯温度を確認する。

給湯温度表示



運転ランプと給湯温度表示が点灯します。

給湯温度を変えたいときは・・
☞P13「給湯温度の変えかた」

⚠注意

やけどに注意

高温注意

- お湯はりするときは、必ず給湯温度を確認してください。
- 浴槽にお湯はりして入浴するときは、必ず手でお湯の温度を確認してください。

残り湯に注意

- 残り湯があるときは、その温度、量に応じて給湯温度、湯量を調節してください。

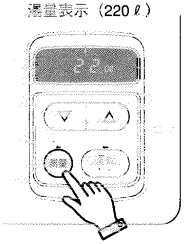
お湯あふれに注意

- 次のようなとき、お知らせ音が鳴る前にシンクなどからお湯があふれることがあります。
  お湯はり中に給湯栓をいったん閉じて、再び開けてお湯はりを続けたとき（再びはじめから湯量をはかりなおしてしまうためです）。

  給湯栓だけでなく給水栓も開けてお湯はりをしたとき。

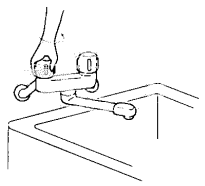
3 湯量 を押して湯量表示にし、湯量を確認する。

湯量表示（220ℓ）



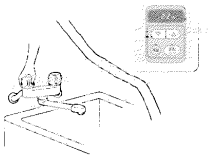
△を押すごとに湯量が増え▽を押すごとに湯量が減ります。
湯量を再び押すかまたは、約20秒そのままにしておくと設定完了となり、給湯温度表示に戻ります。

4 給湯栓を開ける。



ランプが点灯し、しばらくしてお湯が出ます。
お湯はり中に浴室など、他の場所でお湯を使うとお湯はり量はそこで使用した分だけ少なくなります。

5 お知らせ音が鳴ったら（約10秒）、給湯栓を閉じる。



お知らせ音が鳴ると湯量表示に変わります。
給湯栓を閉じるまで湯量表示が点灯します。

給湯栓を閉じると、ランプが消えお湯が止まります。
お湯は自動的には止まりません。
お知らせ音を聞きのがさないように、ご注意ください。

湯量の設定について

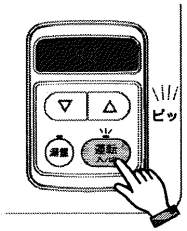
湯量は40ℓ～300ℓ（20ℓおき）、350ℓ、400ℓ、――（設定なし）のいずれかに設定できます。
（お買い上げの際は――に設定してあります）
（――のときはお知らせ音は鳴りません）

- 表示している湯量と実際の湯量は必ずしも一致しません。目安としてください。
- 一度設定した湯量は変更するまで記憶していますので、次回からは湯量を設定する必要がありません。
- 間違えて設定したときは再び 湯量 を押し、湯量表示に変えてからやりなおしてください。
- 湯量を設定するときは、お湯があふれないようにシンクなどの満水量を確認してください。
  お知らせ音はお湯はり以外にもお湯を連続（設定湯量以上）で使用すると鳴ります。

お知らせ音量の変えかた

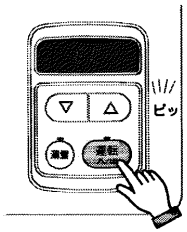
本体操作部のお知らせ音について音量を変えることができます。

1 運転 入/切 を「入」にし、いったん指を離す。



運転ランプと給湯温度表示が点灯します。

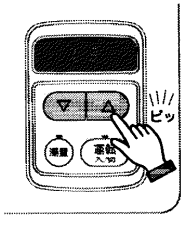
2 運転 入/切 を約5秒間押し続ける。



表示部がいったん消灯し、のち ℃ ランプが点灯します。

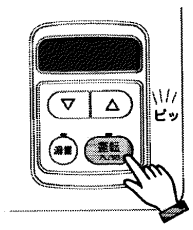
℃ ランプが点灯しないときは、機能 を「切」にし、もう一度1から操作してください。

3 △ を押し、音量を調節する。



△ を押すごとに表示が L1・L2・L3 と変わります。
お好みの音量に調節してください。

4 運転 入/切 を押す。



設定が完了しました。

本体操作部の電子音の種類について

※操作音は変更できません。

ピッ	操作音	スイッチを押したときに鳴ります。
ピピッ	お知らせ音	給湯温度を60℃・HIにしたときに鳴ります。
ピピピピッ		お湯はりのとき設定湯量になると鳴ります。
ピ――		機器や使用方法に不具合のあったときに鳴ります。

お願い

スイッチをまちがえたとき

●まちがって ▽ を押すと、表示部にエラー表示が点灯します。こんなときは、△ を押し、音量調節の表示に切り替えてください。
エラー表示は修理のときに必要なものであり、普段の操作には必要ありません。

お願い

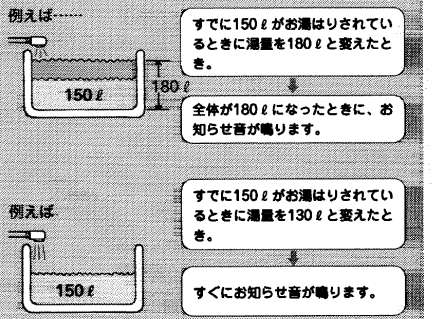
音量について

●音量を小さくすると、お知らせ音が聞こえにくいことがあります。ご注意ください。

●一度設定した音量は変更するまで記憶していますが、停電または電源プラグを抜いたときは、音量を設定しなおしてください。
停電時または電源プラグを抜いたときは、L2に戻ります。

お湯はり中に湯量を変更するとき

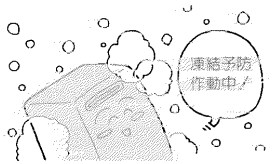
お湯はり中に湯量を変更するときは 運転 入/切 は「入」のまま、湯量 を押して操作してください。いったん 運転 入/切 を「切」にすると、あらたに設定量の湯がお湯はりされます。



通常の寒さのとき（気温0℃～-15℃の場合）

冬期は暖かい地域でも、機器内の水が凍結することがあり、破損事故・水漏れ故障の原因となります。このようなことを防ぐため、凍結予防の処置をお取りください。

凍結予防ヒーターによる方法



この機器には気温が下がってくると自動的に機器を保温する凍結予防ヒーターが組み込まれています。
通常は機器の電源プラグをコンセントに入れておくだけで機器の凍結は予防できます。

本体操作部の（運転）の「入・切」に関係なく作動します。

お願い

電源について

●電源プラグを抜くと凍結予防ヒーターが作動しませんので、電源プラグは抜かないでください。

●停電時は、凍結予防ヒーターが作動しませんのでP19「冷え込みが厳しいとき」またはP20「冬期に長期間使用しないとき」の処置をしてください。

凍結予防

●風が強いときや気温が-15℃以下のときは、この方法だけでは凍結を予防できませんのでP19「冷え込みが厳しいとき」またはP20「冬期に長期間使用しないとき」の処置をしてください。

●この方法だけでは給水・給湯配管、給水元栓などの凍結予防はできませんので、保温材を巻くなどの処置をしてください。不明な点は販売店にご相談ください。

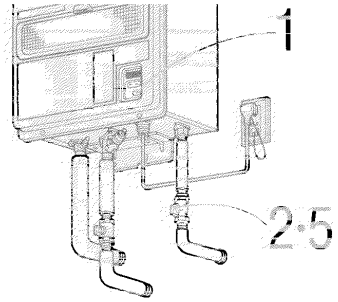
●冷え込みの厳しい地域では、「水道凍結防止器」などを配管およびバルブ類に巻いて、十分な保温をしてください。不明な点は販売店にご相談ください。

●上記の処置をしないで機器が破損したときの修理は保証期間内でも有料です。

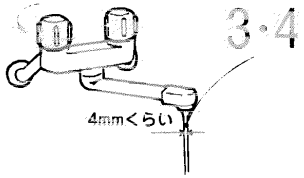
冷え込みが厳しいとき（気温-15℃以下の場合）

異常寒波などで冷え込みが厳しいときは機器や配管などが凍結することがありますので、「通常の寒さのとき」の処置に加えて下記の処置をお取りください。

通水による方法



お湯側を回す



1 （運転 入・切）を「切」にする。

2 ガス栓を閉じる。
右いっぱいに回します。

3 浴槽の給湯栓を開け、1分間に約400cc（牛乳ビン2本分位）の水を浴槽に流し込む。
混合水栓は、必ずお湯側を開けて水を出してください。

4 流量が不安定になることがあるので、約30分後もう一度、水の出具合を確認する。
凍結のおそれがなくなるまで水を流し続けてください。

5 再び使用するときはガス栓を開ける。
左いっぱいに回します。

お願い

凍結予防

●電源プラグは抜かないでください。凍結予防ヒーターがはたらかなくなります。

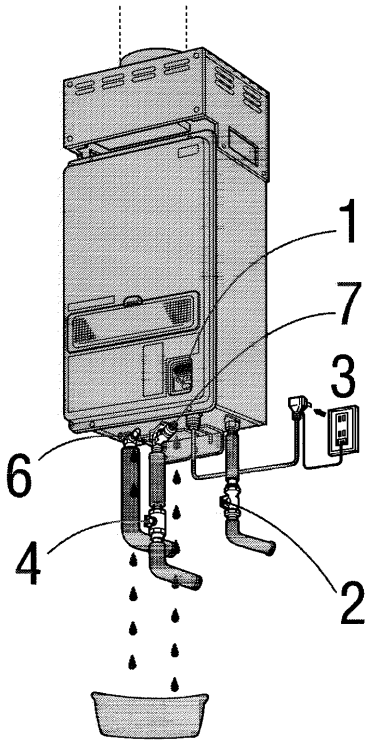
●この方法でも凍結するおそれのあるときは、P20「冬期に長期間使用しないとき」の処置をしてください。

凍結予防

冬期に長期間使用しないとき

この方法は、機器内にたまった水を抜くことで機器の凍結を予防します。給湯使用後は、給湯器内のお湯が高温になっていますので機器が冷めてから行ってください。

水抜きによる方法



1 運転 入/切 を「切」にする。

2 ガス栓を閉じる。
右いっぱいに回します。

3 電源プラグをコンセントから抜く。

4 給水元栓を閉じる。
右いっぱいに回します。

5 全ての給湯栓を全開にする。

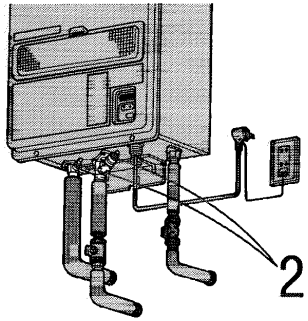
6 水抜き栓②を外す。

7 水抜き栓①をゆるめる。
水抜き栓②①から約500ccの水が出ます。バケツなどを用意してください。

高温のお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。

8 再び使用するまでそのままの状態にしておく。

再び使用するとき



1 全ての給湯栓を閉じる。

2 全ての水抜き栓を元通り閉じる。

3 P11「初めて使うとき」にしたがう。

⚠注意

再び使用するときのご注意

●水抜き栓は元通り確実に閉じてください。
閉じかたが不十分であったり、閉じ忘れたりするとそこから水漏れします。

●凍結、水抜き栓の閉じ忘れなどによる水漏れで壁を汚したり、階下をぬらした場合の修理・補修費用はお客さまの負担となります。

●本体操作部の給湯温度・湯量は電源プラグを抜いても記憶されています。
お知らせ音の音量は再セットしてください。
☞ P16～17「お知らせ音量の変えかた」

お願い

凍結したときの処置

●凍結すると機器は使用できません。ガス栓・給水元栓を閉じ、本体操作部の運転スイッチを「切」にし、給湯栓を開けてください。

●ときどき給水元栓を開け、水が出ることを確認してください。

●水が出るようになっても、機器や配管から水漏れがないかよく確認してから使用してください。
階下をぬらすと、近隣に迷惑をかけるだけでなく、多大な修理・補修費用がかかります。これらの費用はお客さまの負担となります。水漏れなど異常に気づいたときは・・・
☞ P4「異常時の処置」

点検のポイント・お手入れのしかた

安全にお使いいただくために、点検とお手入れは定期的に行ってください。機器などのお手入れは機器が冷めてから行ってください。

点検のポイント　機器周辺の状態

●機器やダクトとの接続部のそばに燃えやすい物はありませんか？
●ダクトとの接続部が外れていませんか？
詳しくは・・・
☞ P2「ダクトとの接続部の外れに注意」
☞ P3「火災・爆発予防のために」

●部屋の窓（給気口・排気口・小窓など）が物などでふさがっていませんか？
☞ P3「使用中は窓（給気口）を開ける」

機器と本体操作部のお手入れ

●機器本体のお手入れは特に必要ありません。機器の汚れがひどいときや、本体操作部の画面を掃除するときには水にぬらした柔らかい布を固くしぼって軽くふき取ってください。
水をかけないでください。故障の原因となります。
☞ P7「お手入れの際の注意」

●フード内部の油受け皿、油滴受け板は定期的（月１回程度）に掃除してください。
☞ P24「油受け皿のお手入れ」

給湯栓のお手入れ

●給湯栓の先端に泡沫器が内臓されているものは、ときどき内部フィルターを掃除してください。
詳しくは水栓の取扱説明書をご覧ください。

点検のポイント　機器の状態

●機器および配管から水漏れはありませんか？
●機器および配管からガスの臭気はありませんか？
●運転中に機器から異常燃焼（点火時や使用時にゴーと音がするような燃焼）や異常音は聞こえませんか？
●機器の外観に異常は見られませんか？
万一異常を感じたときは・・・
☞ P3「ガス漏れ時の処置」
☞ P4「異常時の処置」

●給気フィルターに下記のような異常はありませんか？
・物などでふさがっている。
・ゴミ、ほこりが詰まっている。
・破れ、変形、破損がある。
・機器に確実に装着されていない。
☞ P3「使用中は窓（給気口）を開ける」
☞ P23「給気フィルターのお手入れ」

お願い

機器が古くなると

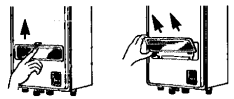
●機器が古くなると、熱交換器やバーナーに錆やスス・ほこりなどが詰まったりします。また、取付場所によりバーナーにクモの巣がはることがあります。こんなときは機器が不完全燃焼を起こすことがあります。より安全にお使いいただくために、定期的に（年一回程度）点検を受けていただくことをおすすめします。（有料）
☞ P28「サービスを依頼されるとき」

●万一使用中に異常音、排気に不快な臭い、目にしみるなどの異常に気づいたときは・・・
☞ P4「異常時の処置」

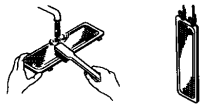
給気フィルターのお手入れ

給気フィルターは定期的（月1回程度）に掃除してください。
給気フィルターにほこりやゴミが詰まると本体操作部にエラー表示 90 が点滅して機器の燃焼が停止します。

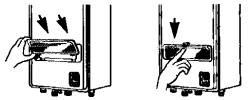
1 運転スイッチを「切」にする。つまみを上にあげ、給気フィルターを外す。



2 ほこりやゴミを掃除機で吸い取るか中性洗剤などで軽く水洗いし、よく乾かす。



3 給気フィルターをもとのように装着し、つまみを下げる。運転スイッチを「入」にする。



●油とりフィルターは汚れたら交換してください。
☞「油とりフィルターについて」

油とりフィルターについて

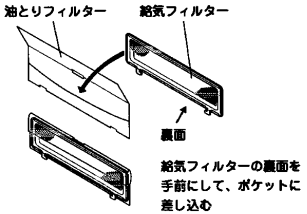
●飲食店など油煙の多い場所で機器を使用すると、内部に油がたまり機器の寿命が短くなることがあります。このような場所では油とりフィルターの使用をおすすめします。

●油とりフィルターには火を近づけないでください。
フィルターに付着した油に引火することがあります。

●専用の油とりフィルター以外は使用しないでください。
思わぬ事故の原因となります。

●油とりフィルターは汚れたら交換してください。使用済みの油とりフィルターは、各自治体のルールに従って廃棄してください。
（材質：ポリエステル系樹脂）

取り付けかた



●油とりフィルターを注文するときは・・・
☞ P28「油とりフィルターを注文するとき」

お願い

給気フィルターお手入れ時の注意

●給気フィルターの変形や破損は、機器の故障の原因となりますので下記の点に注意してください。
・たたいてほこりやゴミをおとさない。
・ベンジン・シンナー・みがき粉などでふかない。
・液状殺虫剤や熱湯などをかけない。
・ぬれたまま装着しない。
●給気フィルターの掃除回数は使用場所により異なります。汚れてきたら掃除してください。
●運転スイッチを「入」のまま給気フィルターを外すと、エラー表示 05 が点滅しお知らせ音が鳴ります。
●給気フィルターがきちんと装着されていないときは機器は使用できません
（エラー表示 05 が点滅します）。
●給気フィルターのアミの破れ、変形、破損のときは販売店でお買い求めください。

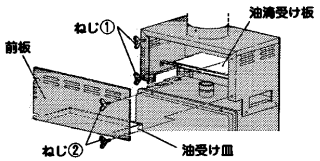
日常の点検とお手入れ

点検のポイント・お手入れのしかた

油受け皿のお手入れ

油受け皿と油滴受け板は定期的（月1回程度）に掃除してください。

1 **運転スイッチを「切」にする。ねじ①をゆるめ、ねじ②を外し、前板を右にずらして手前に引き出す。**
（①を外し、②をゆるめてもかまいません。この場合、前板は左にずらします。）



ねじを外すと前板が傾きますので、手で押さえながら外してください。
油受け皿にたまっている油がこぼれないようご注意ください。

2 **油受け皿を掃除する。油がたまっているときは布などでふきとり中性洗剤で洗ったのち、よく乾かす。**
油滴受け板も汚れているときは掃除してください。

3 **前板を元通りに取り付ける。**
ねじ4本はしっかり閉めてください。

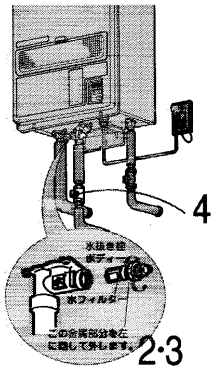
⚠警告

油受け皿お手入れ時の注意

- **前板以外は外さないでください。**
  フード部本体を外したり、フード内部のセンサーを外したりすると、排気が室内に漏れて一酸化炭素中毒の原因となります。
- **前板は元通りに取り付けてください。**
  外れたままで使用すると故障の原因となります。

水フィルターのお手入れ

断水をした後などは、給湯栓からのお湯の出が悪くなることがあります。こんなときは下記の要領で水フィルターを掃除してください。



1 P20「水抜きによる方法」の1、4、6、7の手順を行う。

2 **水抜き栓ボディーを外す。**
分解せずそのままの状態で水フィルターを歯ブラシなどで水洗いします。

3 **水抜き栓ボディーを元通り取り付ける。**P21「再び使用するとき」の2にしたがい、水抜き栓を閉じる。

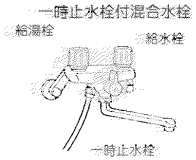
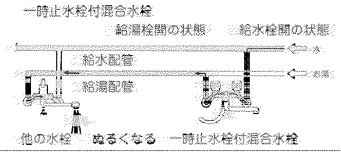
4 **給水元栓を開け、取り付け部分から水漏れがないか確認する。**
水漏れするときは、もう一度1からやり直してください。

5 **給湯栓を開け、水が正常に出るか確認して閉じる。**

故障かな？と思ったら

こんな場合は故障ではありません

次のような現象は故障ではありませんのでご安心ください。

こんなとき	こんな理由
給湯栓を開いてもすぐにお湯が出ない。	機器から給湯栓までは距離がありますので、お湯が出てくるまでに少し時間がかかります。
お湯が白く濁って見える。	これは水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで急速に減圧されることで、細かい泡となって出てくる現象です。ビール、サイダーなどの泡と似た現象であり、汚濁とは違い全く無害のものです。
給湯栓を閉じると機器の給湯側水抜き栓より、水が一時的にポタポタ出ることがある。（特に水圧が高い地域）	これは機器内に高い圧力が生じた場合、過圧防止安全装置のはたらきにより水滴が出る現象で異常ではありません。水滴が落ちて困る場合はビニールホース等で支障のない場所に排水処理をしてください。または販売店、もよりの大阪ガスにご相談ください。
給湯栓を急に閉じるとゴツンと音がする。	水圧が高い地域で、水が急に止まるために発生する音です。ゆっくり操作してください。
給湯栓をしぼると水になる。	給湯栓をしぼりすぎると（1分間に2.0L以下）水になります。こんなときは給湯栓を開けて湯量を増やしてください。
給湯栓を閉じてもしばらく機器から音がする。	再使用時の点火をより早くするため、運転停止後に燃焼ファンを回転させます。
お湯にならない、または本体操作部の設定温度よりぬるいお湯が出る。  ＊一時止水栓は使用中の一時止水のときのみご使用ください。	一時止水栓付の混合水栓を使用している場合や全自動洗濯機に混合水栓を接続しているお宅では、使用後給湯栓・給水栓を閉じてください。 ○一時止水栓で止めたままにしたり、全自動洗濯機に接続してある水栓を開けたままにしておくと、他の水栓（洗面所や台所）でお湯を使うとき、水が給湯側に流れ込み使用する水栓側がお湯にならなかったり、ぬるくなってしまいます。 

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に

修理を依頼される前に、次のことを確認してください。

こんなとき	確認してください	ご覧ください こうしてください
お湯にならない	電源プラグはコンセントに差し込まれていますか？	☞ P11「初めて使うとき」
	ガス栓は全開になっていますか？	
	本体操作部の運転ランプは点灯していますか？	☞ P12「お湯を使うとき」
	給湯栓をしぼりすぎていませんか？	給湯栓を開けて湯量を増やしてください。
	ガスメーターの安全装置（マイコンメーター）のランプが点滅していませんか？	マイコンメーターの取扱説明書にもとづき、メーターを復帰させてください。 ☞ P27「エラー表示」
設定温度より熱いお湯が出る	給気フィルターにゴミやほこりが詰まっていませんか？	☞ P23「給気フィルターのお手入れ」
	給気フィルターが物などでふさがっていませんか？	給気フィルターは物などでふさがないでください。 ☞ P3「使用中は窓（給気口）を開ける」
	ストーブなどを長時間使用し、室内の空気が汚れていませんか？	窓を開けて換気をしてください。
お湯の出が悪い（給湯栓を開けても何も出ない）	給水元栓は全開になっていますか？	☞ P11「初めて使うとき」
	配管内に空気が残っていませんか？（初めて使うとき断水、水抜き後など）	給湯栓の「開・閉」操作を2~3回くり返してください。
	給湯栓の先端にあるフィルターにゴミが詰まっていませんか？	水栓の取扱説明書にもとづき、フィルターを掃除してください。
	断水の後などで水フィルターにゴミが詰まっていませんか？	☞ P24「水フィルターのお手入れ」
	断水していませんか？	全ての給湯栓を閉じて復帰するのをお待ちください
	凍結していませんか？	☞ P21「凍結したときの処置」
適温のお湯が出ない	本体操作部の給湯温度はお好みの温度に設定されていますか？	☞ P13「給湯温度の変えかた」
	サーモスタット式水栓をご使用の場合、本体操作部の給湯温度が低くなっていませんか？	ご希望の温度より高めに設定してください ☞ P8「水栓について」
	水温が高いときに、給湯温度を低く設定していませんか？	☞ P5「お湯を使うときはやけどに注意」

エラー表示

機器や使用方法に不具合のあったときは、自動的に燃焼運転を停止しお知らせ音が鳴ります。本体操作部の表示部にはエラー表示が点滅します。

エラー表示	こうしてください
05	給気フィルターをきちんと装着してください。 ☞ P23「給気フィルターのお手入れ」
11	ガス栓が全開になっているか確認してください。ガス栓を開いたら本体操作部の（運転）を一度切り、もう一度「入」にしてから操作してください。
12	ガスメーターにあるマイコンメーターのランプが点滅していないか確認してください。 ○ランプが点滅しているとき ・マイコンメーターの取扱説明書にもとづき、マイコンメーターを復帰させてください。 それでもなおランプが点滅するときはもよりの大阪ガスへご連絡ください。 ○ランプが消えているとき ・下記のところへ機器の修理を依頼してください。
13	窓を開けて換気をしてください。燃焼異常が生じているため2時間使用できません。復帰後再度エラーが出るときは、電源プラグは抜かず、ガス栓・給水栓を閉じて、下記のところへ修理を依頼してください。その際機器内部のの燃焼ファンが約1時間回転します（音がする）が異常ではありません。
14 15 31 32 33 34 35 38 45 71 72 73	本体操作部の（運転）を一度切り、5分ほどしてからもう一度「入」にし、操作してください。
90	給気フィルターを掃除してください。☞ P23「給気フィルターのお手入れ」 給気フィルター部は物などでふさがないでください。☞ P3「使用中は窓（給気口）を開ける」 油とりフィルターを交換してください。☞ P23「油とりフィルターについて」
94 95	排気ダクトの排気ファンが停止しているときは運転（回転）させてください。 給湯栓を閉じ、1分ほどしてから使用してください。
上記の操作をしてもなおエラー表示が出るときは、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスへ修理を依頼してください。	

アフターサービス

アフターサービスについて

アフターサービスはお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスへお気軽にお申し付けください。

サービスを依頼されるとき

●まずP25～の「故障かな？と思ったら」をご確認ください。なお異常のあるときは、販売店またはもよりの大阪ガスへお申し付けください。

☞別紙／「大阪ガスのお問い合わせ先」

●アフターサービスをお申し付けのときは、次のことをお知らせください。

1　お名前・ご住所・電話番号・道順
（近所の目印など）

2　品名

〈例〉 （N 33-359
大阪ガス株式会社

3　現象
（リモコン表示部の状態またはエラー表示番号などできるだけ詳しく）

4　訪問希望日・時

油とりフィルターを注文するとき

●油とりフィルターの注文については、大阪ガスのもよりのショップへお問い合わせください。

品名：油とりフィルターF01
（部品コード：133-358-896）

機器を移転するとき

●ガス種が異なる地域へ機器を移転されるときは機器の調整、改造が必要となります。販売店または転居先のガス事業者（供給業者）へご相談ください。ガス種によっては機器の改造ができないことがあります。

●電源が一致しないときは電気工事店へ電圧の変更を依頼してください。

●増改築などのために機器を移転される場合、工事には専門の技術が必要になりますので、必ず販売店またはもよりの大阪ガスへご連絡ください。

●転居、移転に伴う調整や工事の費用は有料です。

●設置場所の選定にあたっては、運転音や振動が大きく伝わらないような場所をお選びください。また、排気筒トップからの温風や運転音が隣家の迷惑にならないような場所を選ぶなど、ご配慮ください。
足場などを組まなければ修理できないような高所には設置しないよう設置時に販売店にお願いしてください。

保証について

●保証書の「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめになり、保証内容をよく読んでください。

●保証期間経過後の故障については、修理により製品の機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

この製品の修理用性能部品〈機能を維持するための必要な部品〉の最低保有期間は、製造打ち切り後7年間です。但し、最低保有期間経過後であっても修理用性能部品の在庫がある場合は、有償修理いたします。

仕様

仕様

仕様表

分類名称		ガス給湯器（厨房ダクト直結形）
品名		33-359型
型式名		UR-1050FES-L-HP
※※※外形寸法		幅370×奥行き200×高さ816(mm)
製品質量		25kg
接続口	ガス	15A(R1/2)
	給水・給湯	15A(R1/2)
※給湯能力		10～3号
最低作動水圧		9.81kPa(0.1kgf/cm²)
最低作動水量		2.5L/min
希望水圧		78.5kPa(0.8kgf/cm²)～785kPa(8.0kgf/cm²)
電気関係	電源	AC100V(50Hz/60Hz)
	※※消費電力	44W/44W(50Hz/60Hz)
	点火方式	連続放電点火方式（ダイレクト点火方式）
制御装置	ガス	ガス比例制御方式
	水	水温検知水量制御方式
電源コード長さ		2m
安全装置		立消え安全装置・空だき安全装置・空だき防止装置・停電時安全装置・過熱防止装置・漏電安全装置・過電流防止装置・過圧防止安全装置・ファン回転検出装置・煽機防止装置・燃焼異常検知装置・排気温度異常検出装置・排気あふれ検出装置

※給湯能力はガス種により多少異なります。
※※凍結予防ヒーター作動時74W
※※※突出寸法は含みません。

能力表

使用ガス（使用ガスグループ）	1時間当たりのガス消費量kW	出湯能力(L/min)		ガス接続
	最大	水温+25℃上昇	水温+40℃上昇	
13A	22.1(19,000kcal/h)	10	6.3	15A(R1/2)
12A	20.6(17,700kcal/h)	9.4	5.8	

●本仕様は改良のため予告なしに変更することがあります。
●ガスはＪＩＳに規定する標準ガス・標準圧力のときの表示です。
●上記以外の型式は仕様が異なる場合があります。
●出湯能力は水温・圧力により多少異なります。

メモ

メモ欄としてお使いください。